シュンギク

冬の鍋物用シュンギクはこれからがまきどき

板木技術士事務所●板木利隆

冬の鍋物に欠かせないシュンギクですが、天ぷらやおひたしにも向き、近年は生のままサラダやトッピングにと、幅広く用いられるようになりました。

いずれも取りたての新鮮さが魅力。栽培もしやすいので家庭菜園の野菜としてはうってつけです。

地中海沿岸地方の原産、日本へは中国を経て室町時代に渡来し、江戸時代から栽培が盛んになりました。春に黄色い花をにぎやかに咲かせるので「春菊」の名が付けられました。地域によっては「菊菜」と呼ばれることもあります。

まきどきは9月。種の準備をしましょう。

葉の切れ込み具合によって、大葉種、中葉種、小葉種に分かれますが、現在主に流通しているのは切れ込みが目立つ中葉種です。

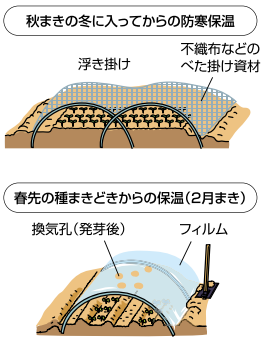
切れ込みが浅く大型の葉の大葉種は葉肉が厚くて柔らか、香りが強いです。この他に、茎が太くて長く伸びヤシの木のような草姿となり、癖の少ないスティックシュンギクがあります。サラダや天ぷらにしておいしいです。

種まき

土壌に対する適応性はかなり高い方ですが、乾燥には弱いので、保水力のある畑を選びましょう。

生育適温は15～20度ですので、低温期に良品を得るには、フィルムやべた掛け資材により保温します。

保温



種まきに際しては、シュンギクの種子は充実度にばらつきがあり、もともと発芽率が低い性質があるので、やや厚まきにし、芽が多く出たところを間引きして生育をそろえるようにしましょう。セルトレイで育苗する場合は、1穴に種を1cm位の深さに1粒まきます。本葉1枚の頃に苗床に移植し、本葉5～6枚になったら、畑へ植えてください。種子は好光性で、覆土が厚いと発芽しにくいですから、覆土はやや薄めにし、覆土が厚い部分は芽が出たら間引きます。

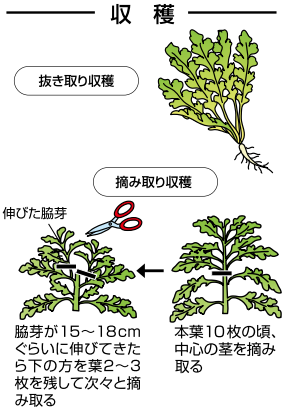
間引き

間引きは本葉2枚の頃2～3cm間隔に、本葉7～8枚の頃5～6cm間隔を目安とします。間引き後は畝間に追肥し、軽く耕し込んでおきます。

収穫

収穫は、株ごと抜き取る方法と、本葉10枚ぐらいになったら下の方の葉を3～4枚残して中心の茎を摘み取る方法があります。摘み取りの場合は、中葉種の中でも茎が伸びやすい新種を用い、最終株間を10cmぐらいに広く取り、多くの良い側枝を出させるために図のように摘み取ります。

収穫



㊟水切れに弱いので、水やりには注意！

尿素などの窒素肥料は1度にあげすぎないこと。害虫の発生の元になります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

JAグリーンおすすめ♪

シュンギクを栽培したいあなたに！

〈種まきに〉
タキイの種まき培土

〈堆肥〉
完熟発酵牛糞しおさい

〈肥料〉
園芸化成682
窒素が多い肥料がおすすめです。

〈薬剤〉
殺菌剤
アミスター20フロアブル…炭素病に効果的です。
Zボルドー銅水和剤…べと病に効果的です。

殺虫剤
ダントツ粒剤…アブラムシに効果的です。
ゼンダーリ顆粒水和剤…ヨトウムシやアオムシに効果的です。
アファーム乳剤…アザミウマに効果的です。

〈マルチ〉
サンサンネット
（幅1.8m×長さ5m）

切花の種入荷しました！

9月播きの花の種をたくさん取り揃えています。

JAグリーン津店
岡林 瑠奈

乙女座 8.23～9.22
【全体運】新しいことを始める好機。何事にも前向きにトライを。オープンしたばかりのお店に足を運ぶのも良い刺激に
【健康運】小さなけがに注意。慌てず、落ち着いて　【幸運を呼ぶ食べ物】サンマ